

秋の甲子園

2023.9.5

今年の夏は暑かった。福島は毎年暑い。だが、今年は尋常ではなかった。7月中旬に、自宅リビングのエアコンを動かしてみた。一向に冷たい風が出てこない。いよいよ壊れたか。我が家は20年目になる。エアコンも20年選手である。さすがに、お疲れ様か。

ここからが早かった。すぐに電気屋さんに行った。最近のエアコン事情がさっぱりわからない。店員さんの説明を聞く。いつもならば、ここから慎重に慎重に検討に検討を重ねてから購入するはずの家人なのだが、このときは違った。即断即決だった。

その後、家人の判断は正しかったことがわかる。エアコンなしでは、とてもではないが居られない。毎日、エアコンのお世話になる日々が続いた。

夏の甲子園では、クーリングタイムなるものが設けられた。選手にとってはよかったのかもしれないが、あの10分間で流れが変わってしまった試合もあった。試合は怖い。特に野球は怖い。この暑さは、今年に限ったものではないだろう。来年以降も続くと考えるべきである。夏の風物詩の一つである甲子園大会も開催時期や開催方法を検討するようになるかもしれない。もし、甲子園大会が夏ではなくなったら、世の中は一気に暑さ対策に舵を切るのではなかろうか。そのくらい、夏の甲子園大会は定着しており、影響力もある。

毎年、7月下旬に行われてきた相馬野馬追が、来年から実施時期を変更するらしい。こういった伝統行事は、変えるのがむずかしいのかと思っていた。学校も考えなければならない。教室にはエアコンがあるためよいが、体育館が問題である。夏の体育館はもはや使い物にならない。全校生が一堂に会する始業式や終業式、毎日ある部活動などを行うことができない。冷房を入れなければ、まはや危険な場所ではない。

夏の甲子園に限らず、中学生や高校生の全国大会は、夏である。冷房が入った体育館が会場であればよいが、冷房なしの体育館や外での競技は、開催するかどうかの判断が必要になるだろう。冷房代も考慮に入れなければならない。日本の夏は、スポーツには不向きな夏となってしまった。熱中症警戒アラート、暑さ指数3.1などの基準はあるが、暑いかどうかには個人差がある。そのときの体調にも左右される。

8月22日(火)から2学期がスタートした。今までと同様に、7時20分から正門前に立った。暑くて立ってられない。じっとしてられない。昨年までは、こうではなかった気がする。年齢のせいかな。この状況の中、登校してくる生徒も大変である。

数年後には、秋の甲子園になっているかもしれない。全中も8月ではなくなっているかもしれない。我々は暑さ対策をしながら、なぜこんなに暑い夏になってしまったのかをみんなで考えていく必要があるのかもしれない。